

## 11-12 スマートホン

## (1) 利用状況

総務省が2014年に都立高校生を対象に実態調査を行ったところスマートホン所有率は84%に及んでいた(「高校生のスマートフォンアプリ利用とネット依存に関する調査」)。また、「平成29年総務省通信利用動向調査」によると、6～12才30.3%、13～19才79.5%、20才代94.5%、30代91.7%、50代72.7%と親世代よりも子ども世代の所有率が高いという結果もでていいる。子どもが持ち始めるのは高校入学の15歳ごろがピークといわれ、その利用時間も、10代、20代の女性では1日80分以上にのぼる。事故や眼・筋骨格系の疾病り患や生活リズムの崩れからからくる心身への様々な影響も指摘されている。

子どものスマートホン利用の目的は年齢によって異なるが、小学生ではゲームが多く、中学・高校と年齢があがるごとにLINEやTwitterなど連絡ツールの利用が増える。

文部科学省では、「ケータイ・スマホ、正しく利用できていますか」というサイトを、小・中学生版と高校生版に分けて設け、注意を呼び掛けている。

## (2) コミュニケーションアプリの流行

最近の子どもは、友だちとのやりとりにメールよりもコミュニケーションアプリを使うことが増えている。また、中学生にはSNSやブログも人気がある。

物心ついたときからインターネットがある時代に育った子どもたちは、受信・閲覧利用が多い大人世代と違い、インターネット上に自分が参加したり、情報発信するのが当たり前になっている。友達付き合いにもインターネットを利用する。保護者が知らないうちに見知らぬ相手と知り合いになってしまうことも少なくない。

以下、文部科学省のサイトから、注意点をまとめてみる。

## 【子どもに教えたたい危険性 文部科学省「ちょっと待って！ケータイ&amp;スマホ」より】

## 1) ネット依存になっていないか。

布団に入っても、自転車に乗っても、歩きながらも手放せない。これはネット依存といわれる状況である。睡眠不足は、生活リズムを崩し、授業に集中できなくなったり、食事もとれなくなったりする。野外での「ながら」は、自分だけでなく周りの人にも危険である。ネットをしない「時」や「日」を決めてメリハリをつけることが必要である。

## 2) ブルーライトの刺激と筋骨格系への影響

液晶画面から出るブルーライトを暗い場所で見たり、長時間見続けると視力低下を引き起こすといわれている。また、脳を興奮させる働きをもっており、不眠の原因にもなる。また、前かがみの姿勢は、頸肩の凝りにつながる。

## 3) SNS との出会い、プライバシー保護に注意

自分や友人など個人を特定できる情報や画像は載せない。知らない人とのやりとりには多くの危険が伴う。画像ファイルには、位置情報が含まれていることがあり、要注意である。

4) いじめは人権侵害

匿名であっても他人を誹謗中傷することは人権侵害で、犯罪になる。ネット上でも社会と同じ責任を問われる。他の人のいじめに気が付いたら、まわりの大人に相談する。また、一旦、ネットに乗せた情報は、繰り返しコピーされて拡散し、完全削除は難しくなる。

5) 多額請求

本当に無料か、安いゲームを気軽に使い高額請求を受けることもある。利用契約を必ず確認する。気づかないうちに有料サイトに引き込まれてしまうこともある。フィルタリングが必要である。

6) 無料アプリに注意

アプリの中には無料で利用できるものもあるが、中には悪質なものがあり、位置情報や電話番号、メールアドレスなどの個人情報を取られることもある。アプリは公式サイトからダウンロードし、利用規約や同意事項、個人情報の扱いなどをよく読んでから利用する。